2024 年度事業方針

WCRP 日本委員会は、創設以来、寛容な精神に基づく積極的な対話、諸宗教間の相互理解から生み出される叡智の結集、社会のあらゆる分野との協働、そして地球的視野で行動できる人づくりを実践目標に掲げ、「すべてのいのちをいかし合う世界」の実現を展望してきた。そして、平和に向けた（１）宗教間や各界におけるネットワーク化の推進、（２）啓発・提言活動、（３）平和教育・倫理教育、（４）人道支援という行動指針のもと、宗教協力活動に取り組んでいる。

ロシアとウクライナの戦争は、開始から２年が経過するが未だ収束に至らず、その間に昨年 10 月、イスラエルとハマス等のパレスチナ武装勢力との大規模な武力衝突が勃発した。さらにはアフガニスタン、ミャンマー、シリアなどで紛争が継続的に起こっているように、現在の国際社会は多くの対立・分断に直面している。そして、それらは想像を絶する凄まじい数の犠牲者を生み出している。

こうした対立が蔓延る中、気候変動による影響は益々過酷なものとなっている。昨年、世界の平均気温が史上最高を更新し、地球温暖化の様相はまさに地球沸騰化の時代に突入したと言わざるを得ない。世界各地で異常気象、大規模な山火事、大洪水、干ばつなどが頻発した。昨年の COP28 において各国の温暖化対策の進捗評価が公表されたが、このままでは、到底、将来にわたって気候危機の状況から脱却できないどころか、その深刻度が加速化されることが判明した。

さらには、極端な経済格差、出自や属性における差別、マイノリティーへの抑圧など世界には人間の尊厳を脅かす問題が様々なかたちで存在している。また昨年のトルコ・シリア大地震や本年元日に発生した令和６年能登半島地震など、自然災害の脅威によっても多くの人々が困難な状況に直面している。

このような厳しい国内外の課題がある中で、改めて、2019 年ドイツ・リンダウ市で開催された第 10 回 WCRP 世界大会の「リンダウ宣言」で提唱された積極的平和の考えを喚起したい。それは「根源でつながりあっているがゆえに、我々の幸福は本質的に共有されている。他者を助けることは、自分自身を助けることであり、他者を傷つけることは、自分自身を傷つけること」を意味するものである。人類は一人ひとりが地球家族の一員として、祖先からの生命を次世代へと手渡す連続性のなかで、すべてのいのちの尊厳を守りつつ、相互依存の関係を基盤として生きているのである。この認識のもと、WCRP 日本委員会は、本年も「調和」を重んじる精神文化を現代社会にしっかり築き上げ、それを世界に発信していくことに注力する。

そこで、2024 年、WCRP 日本委員会は以下の行動に重点をおく。

（１）紛争予防・和解、紛争後の平和構築への取り組み

現在の国際社会は暴力など力による現状変更がなされている。WCRP 日本委員会は、力ではなく信頼にもとづく対話による問題解決を実践し、その重要性を広く国際社会に発信する。2022 年に引き続き、東京で平和円卓会議を開催し、ウクライナや中東などの紛争地域における宗教者間の対話を促進する。

（２）タスクフォースの強化

WCRP 日本委員会は、流動する国際・社会情勢に適切かつ柔軟に対応するために、タスクフォースを設置し、具体的な活動を推進している。現在、タスクフォースは、「ストップ！核依存」、「気候危機」、「人身取引防止」、「和解の教育」、「災害対応」の５つがある。2024 年は４年に１度のタスクフォース体制を見直しを経て、強化を図る時である。その時どきの課題に迅速に対応できるようにタスクフォース活動のより一層の充実を図る。

（３）平和を脅かす新たな課題への対応

現在、AI（人工知能）、ロボティクス、量子コンピューター等を代表とするテクノロジーが急激に発達し、私たちの生活に大きな影響を与えている。これは平和の諸問題との関係においても様々なインパクトを引き起こしている。例えば武器など軍事装備や技術に AI が活用されることによって、より酷い非人道的な行為が行われている。国連の安全保障理事会は、昨年はじめて AI の問題を平和の課題として議論を始め、国連事務総長は 2023 年 10 月に「国連 AI に関するハイレベル審問委員会」を発足させ、この問題への対応に着手した。WCRP 日本委員会は、こうした平和の新たな課題にも向き合っていく。

（４）アジアにおける宗教者交流

コロナ禍が収束される中で、国際的な宗教交流も再開しつつある。特に、WCRP 日本委員会は、これまで中国、韓国をはじめとする東アジアの宗教者との対話・交流を大切にし連帯を深めてきた。こうした宗教者同士の交流と連帯は、この地域の平和と安定にとって不可欠である。2024 年は、東アジアにおける宗教者交流を積極的に進め、この地域における信頼醸成による平和構築を図る。

また、WCRP 日本委員会が ACRP 事務局を受け入れて、2024 年で 10 年目となる。その間、ACRP 東京大会を開催し、フラッグシッププロジェクトを通して ACRP の活動がより活発化した。アジアには様々な平和の課題があるが ACRP が人々の希望の灯火となるように、WCRP 日本委員会として引き続き ACRP の活動を支援し、推進する。

（５）宗教者の連携による人道支援

トルコ・シリア大地震や能登半島地震、ミャンマーにおける軍事的クーデターなど、その混乱は今でも収束されていない。これらの悲劇に対し WCRP 日本委員会は、賛助会員をはじめ関係者に呼びかけ、頂いたご浄財をもとに、苦境に喘ぐ人々への人道支援を実施してきた。2024 年も引き続き、頂戴したご浄財を大切にし、支援活動を継続して実施する。

以　上